

第 21 回日本消化管学会総会学術集会・第 52 回日本潰瘍学会 合同セッション
「消化管炎症の病態と治療」

司会 磯本 一（鳥取大学医学部消化器腎臓内科学）
渡邊 俊雄（大阪公立大学先端予防医療学）

逆流性食道炎、消化性潰瘍、炎症性腸疾患は代表的な炎症性消化管疾患である。また、各種薬剤性消化管傷害や好酸球性消化管疾患なども近年臨床的な重要度が高まっている。これらの疾患では様々な内的、外的な因子が複雑に作用しており、病態の理解は進んでいるものの、未だ全容は解明されていない。一方、治療については炎症性腸疾患治療薬を中心に新規分子標的治療薬が次々に上市され QOL を含めた治療予後は改善しているが、再発、難治、無効例も多く、治療薬開発における一層のブレークスルーが望まれている。本セッションでは消化管炎症の病態や治療に関する新知見を、基礎、臨床を問わず広く募集する。